

中 学 校

平成 2 5 年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	
	1 研究構想図	4
	2 仮説の検証	4
V	研究の内容	
	指導の実態	
	〈指導例 1 : 第 1 学年〉	6
	〈指導例 2 : 第 2 学年〉	12
	〈指導例 3 : 第 3 学年〉	18
VI	研究のまとめ	24

研究主題

〈創造的な聞き手〉を育てるための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

「平成24年度全国学力・学習状況調査」(国立教育政策研究所)の国語(中学校第3学年対象)に関する調査結果において、課題が見られる事項として、「相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くこと」が挙げられた(通過率20.6%)。平成25年度と同調査においては、「個々の発言の内容を整理しながら話合いの方向を捉えて話すことに課題がある」と指摘されている(「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」)。

また、「平成24年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)の国語(中学校第2学年対象)においては、「目的や場面に応じて、条件に基づき質問しようとしているかを見る問題」の正答率が25.9%という低い数値であった。平成25年度と同調査においては、「話の内容を的確に捉えることができるかを見る問題」についてはおおむね満足できる状況にあるものの、「話合いの話題や方向を的確に捉えることができるかを見る問題」については課題があることが指摘されている(「平成25年度児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」)。

これらの調査結果の分析から、意図や目的をもって主体的に話を聞いたり、聞いたことを基に自分の考えをまとめたりすることに課題がある生徒の実態が見えてくる。

学習指導要領の改訂に伴い、国語科の「話すこと・聞くこと」の指導事項においては、「聞くこと」の指導事項が各学年において独立した項目として記載され、指導すべき内容がより明確に示された。そこでは、話の内容を正確に聞き取るだけでなく、「自分の考えとの共通点や相違点を整理すること」(第1学年)、「自分の考えと比較すること」(第2学年)、「内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること」(第3学年)までを含めて「聞くこと」の指導事項としている。つまり、話を聞く際に、情報の受け手として話の内容を正確に聞き取るだけでなく、自分の考えをもち、話し手の意見や考えと自分の考えとを対比させながら聞き、共通点や相違点等を整理したり比較したりすることで、自分のものの見方や考え方を深められるようになることが求められている。しかし、上記の調査結果の分析は、そのような聞く力の育成に課題があることを明らかにしている。

各教科等における言語活動の充実を支える基盤となる力の育成は、国語科の大きな役割であり、その中でも「話すこと・聞くこと」の指導は、特にコミュニケーション能力の基盤となる力を育むものとして重視されなければならないものである。「正確な聞き取りはできるが、聞き取ったことを自分の考えに生かして相手に伝えることができない。」「話合いが一方的な『伝達』の場になってしまい、互いの意見や考えを深めることができない。」という生徒が多い現状において、意図や目的をもって主体的に話を聞き、聞いたことを基に自分のものの見

方や考え方を深めることができる聞き手＝〈創造的な聞き手〉の育成は、国語科の急務であるといえる。

これらのことを踏まえ、本研究では、研究主題を「〈創造的な聞き手〉を育てるための指導の工夫」とし、「話すこと・聞くこと」の指導事項の中で、特に「聞くこと」の指導に焦点を当てて、研究を行うこととした。

Ⅱ 研究の視点

意図や目的をもって主体的に話を聞き、聞いたことを基に自分のものの見方や考え方を深めることができる聞き手を本研究では〈創造的な聞き手〉と呼ぶ。〈創造的な聞き手〉となるために必要な力を生徒一人ひとりに身に付けさせるための、効果的な指導の工夫を示すことが、本研究の目指すところである。

学習指導要領では、「話し合うこと」についての指導事項の中に「自分の考えをまとめること」（第1学年）、「自分の考えを広げること」（第2学年）、「互いの考えを生かし合うこと」（第3学年）という内容が示されている。話し合いを、話す力と聞く力とを総合的に生かす場と捉えるなら、〈創造的な聞き手〉になることは、話し合いの中で話を聞き、あるいは自分も話しながら、自分の考えをまとめ、広げ、互いの考えを生かし合うことができるようになることでもある。「意図や目的をもって主体的に話を聞き、聞いたことを基に自分のものの見方や考え方を深める力」、「話し合いの中で、自分の考えをまとめ、広げ、互いの考えを生かし合う力」、それは言い換えれば、話を聞くことによってそれまでの自分の意見や考えを見つめ直し組み立て直していく力、すなわち、聞くことを通して「自分の考えを再構築する力」であるといえる。

先に述べたように、生徒を〈創造的な聞き手〉とするためには、話の内容を正確に聞き取る力だけではなく、学習指導要領に示される、「共通点や相違点を整理」する力、「自分の考えと比較」する力、「聞き取った内容や表現の仕方を評価」する力を身に付けさせることが必要である。しかし、仮に、話を聞いて自分の考えとの共通点や相違点をワークシート等に整理して記録できたとしても、そこで終わってしまっていては、本研究が目指す生徒像である〈創造的な聞き手〉になったとはいえない。整理や比較や評価は「自分の考えの再構築」につながって初めて意味を成すのであり、そこにこそ、指導の工夫の大きなポイントがあるということになる。

そのような視点から、本研究では、「話すこと・聞くこと」の指導において、生徒が主体的に聞く活動に取り組み、聞いたことを基に自分の考えを再構築できるようにすることを目標とした。

具体的な取組として、

- ① 意図や目的をもって主体的に聞く活動に取り組みさせるための工夫
- ② 聞いたことを「自分の考えの再構築」へとつなげさせるための工夫

の2点について検討し、各学年の発達段階等に応じた単元を設定し、検証していく。

Ⅲ 研究の仮説

本研究は、「話すこと・聞くこと」の指導において、「意図や目的をもって主体的に話を聞き、聞いたことを基に自分のものの見方や考え方を深める力」、「話し合いの中で、自分の考えをまとめ、広げ、互いの考えを生かし合う力」を身に付けさせ、聞くことを通して自分の考えを再構築できる聞き手＝〈創造的な聞き手〉を育てるための具体的な手だてを明らかにすることをねらいとしている。

その前提として、前章に挙げた①②の工夫について検討を行った。

まず、①に挙げた「意図や目的をもって主体的に聞く活動に取り組ませる」ことについてである。これを実現するには、聞いたことの活用が必然的に求められる場面を単元の中で設定する必要がある。聞いたことを基に、自他の意見・考えを総合的に捉えた上で取り組まなければならない活動を、単元の中に具体的に位置付けることで、生徒は意図や目的を明確に意識して聞く活動に取り組むようになるはずである。

次に、②に挙げた「聞いたことを『自分の考えの再構築』へとつなげさせる」ことについてである。これを実現するには、「自分の考えをよりよいものにしたい」と生徒が願うような状況や、「自分の考えだけでは対処できない」と生徒が感じるような状況を、意図的に設定することが効果的である。聞く活動を、別の活動を成就させるための手段として単元の中に設定することで、生徒は聞いたことを自分の考えの再構築へと意識的につなげていくようになるはずである。

聞いたことの活用が必然的に求められる場面を、「話すこと・聞くこと」の単元の中に効果的に設定するためには、単元を貫く課題解決的な活動を明確にすることが有効であると考えた。また、聞く活動を手段として位置付けるためには、再構築された自分の考えを表出する活動を設定することが効果的であろうという検討結果となった。

そのような検討を経て、本研究では、単元を貫く課題解決的な活動を「発信すること」とし、「発信を前提とした聞く活動」を意図的・計画的に取り入れて各学年の単元を設定することとした。「発信」という最終的な目標をもたせることによって、他者の意見や考えを聞く際に「何を・どのように聞くことが必要か」が明確になる。また、聞いた内容に基づいて自分の考えを見つめ直すことで、話を聞く前にはもてなかった視点や気付かなかった角度からあらためて課題を捉え直し、自分の考えを再構築できるようになる。さらに、「発信」という形で、再構築した自分の考えを言語化させることで、どのように自分の考えが再構築されたのかを、客観的に生徒自身が確かめたり授業者が評価したりすることができる。

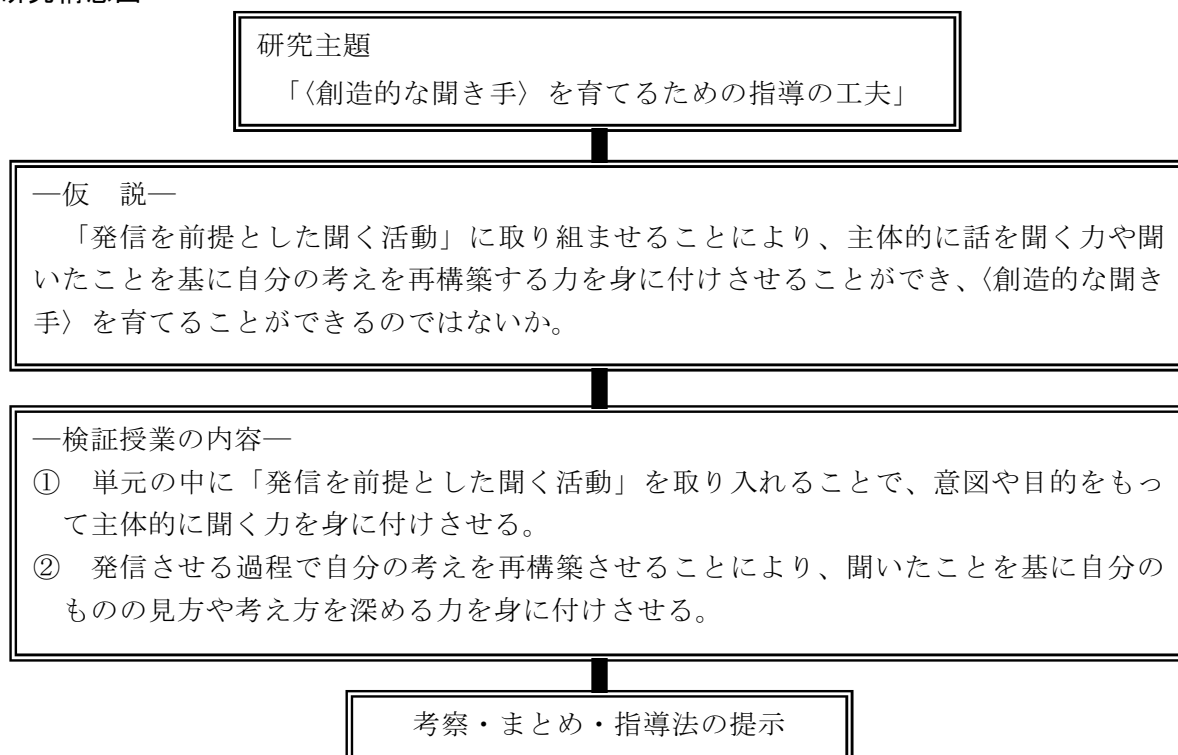
以上のことから、本研究では、「話すこと・聞くこと」の指導において、「発信を前提とした聞く活動」に意図的・計画的に取り組ませることで、学習指導要領の「聞くこと」についての指導事項が着実に身に付いている生徒、すなわち、〈創造的な聞き手〉を育てることができるのではないかと考え、次のように研究の仮説を設定した。

—仮説—

「発信を前提とした聞く活動」に取り組ませることにより、主体的に話を聞く力や聞いたことを基に自分の考えを再構築する力を身に付けさせることができ、〈創造的な聞き手〉を育てることができるのではないか。

IV 研究の方法

1 研究構想図



2 仮説の検証

本研究では、〈創造的な聞き手〉を育てるために、単元の中に「発信を前提とした聞く活動」を取り入れる。聞く目的を明確に理解し、「何を・どのように聞くことが必要か」を適切に判断しながら聞く活動に取り組ませ、主体的に聞く力の向上を図る。また、発信する過程で自分の考えを再構築させることにより、聞いたことを基に自分のものの見方や考え方を深める力の育成を図る。

それらの活動を取り入れた具体的な単元を3学年それぞれについて設定し、授業を行った後、成果と課題を分析・考察することによって仮説を検証する。

● 検証の方法

第1学年

- (1) ポスターセッションの中で「発信を前提とした聞く活動」に取り組ませる。
- (2) 聞いたことを基に、日本語の魅力を紹介するスピーチ（「発信」）を行わせる。

第2学年

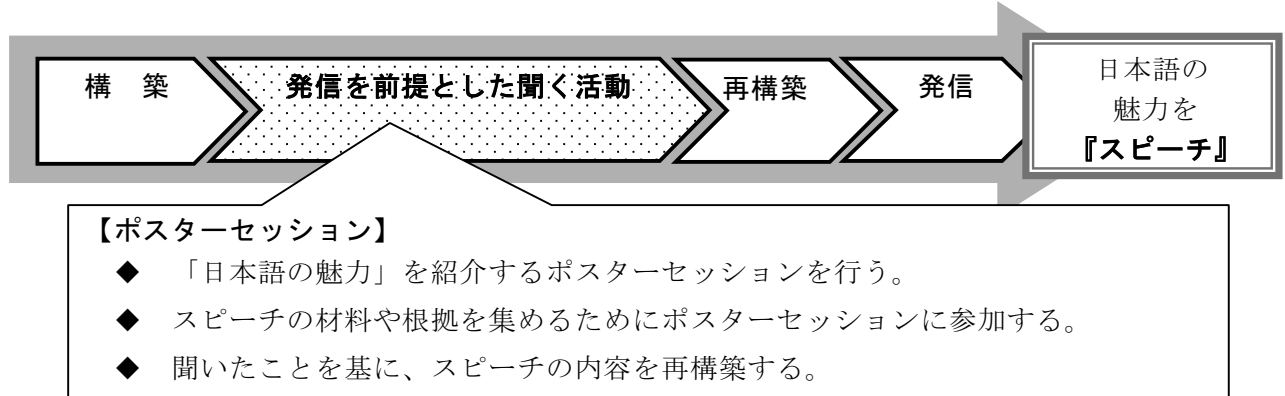
- (1) パネルディスカッションの中で「発信を前提とした聞く活動」に取り組ませる。
- (2) 聞いたことを基に、未来の母校に向けて今できることを宣言（「発信」）させる。

第3学年

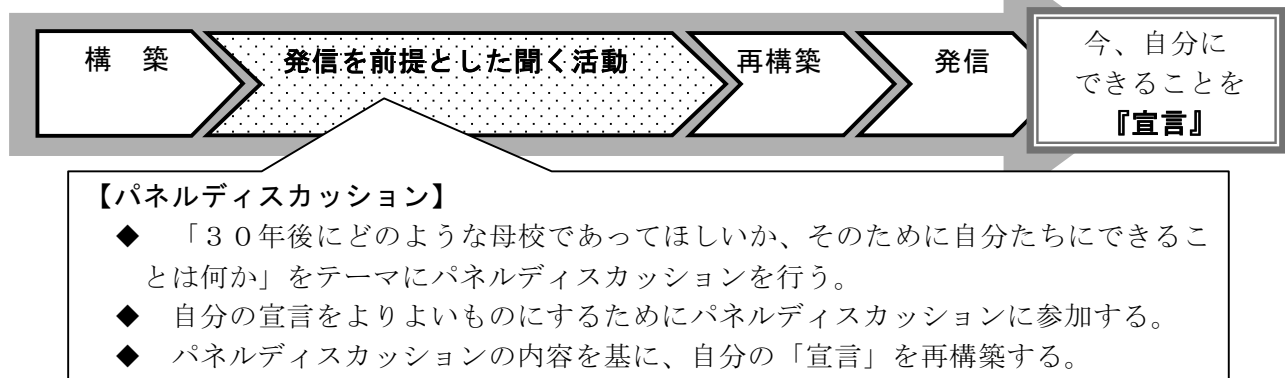
- (1) 企画会議の中で「発信を前提とした聞く活動」に取り組ませる。
- (2) 聞いたことを基に、東京で開催されるオリンピック・パラリンピックで売り出す弁当についての企画書（「発信」）を作成・提出させる。

「発信を前提とした聞く活動」に取り組み、 自分の考えを再構築する

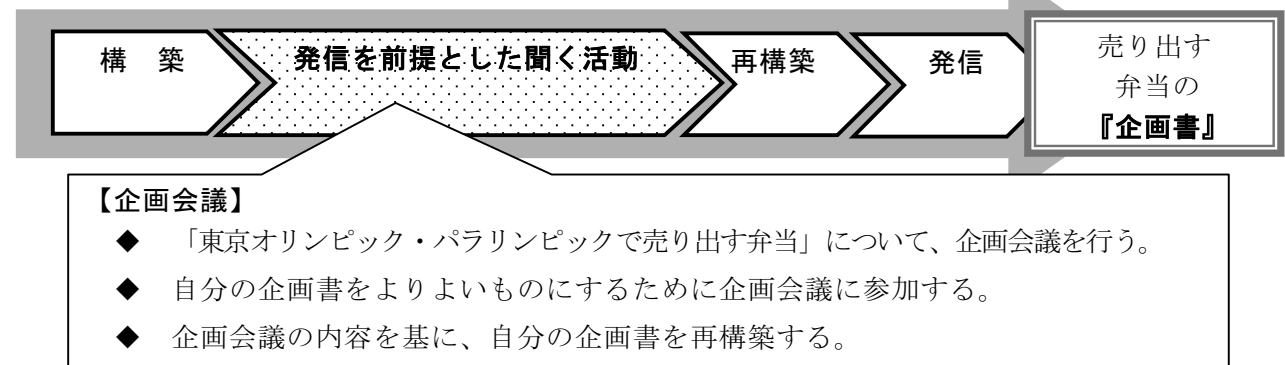
● 第1学年：「日本語の魅力を紹介しよう」



● 第2学年：「30年後の母校に向けて、今できることを『宣言』しよう」



● 第3学年：「東京オリンピック・パラリンピックで売り出すお弁当を企画しよう」



V 研究の内容

指導の実際

＜指導例 1：第 1 学年＞ 日常生活の中の話題について紹介や報告をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすることの指導例

1 単元名

日本語の魅力を紹介しよう ～ポスターセッションで様々な考えを聞く～

2 単元の目標

日本語の魅力についてポスターセッションを行い、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら話を聞き、自分の考えを再構築することができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 日本語の魅力についてポスターセッションを行い、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら話を聞き、自分の考えを再構築しようとしている。

【話す・聞く能力】

- ・ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理している。（A 話すこと・聞くこと(1)エ）
- ・ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめている。（A 話すこと・聞くこと(1)オ）

【言語についての知識・理解・技能】

- ・ 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもち、自分の考えをまとめている。（〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(ウ)）

4 教材

- ・ 国語便覧、日本語の特徴・特質等についてまとめられている図書
- ・ ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全 4 時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第 1 時	○ 外国の人に日本語の魅力伝えるスピーチを行うための材料を集める。	○ ポスターセッションを経て最終回でスピーチ（最終スピーチ）を行うことが目的であることを説明する。 ○ 相手意識をもたせ、日本語の魅力伝えられる特徴を選択させる。
第 2 時	○ ポスターセッションを行うためのスピーチメモとポスターを作成する。	○ スピーチメモとポスターは簡潔に作成させる。 ○ ポスターセッションでの質問を予想させ、回答を考えさせる。
第 3 時	○ ポスターセッションを行い、必要	○ 自分の考えを分かりやすく簡潔に

	に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えを再構築して、最終スピーチのスピーチメモを作成する。	発表させる。 ○ 最終スピーチの参考になる情報を聞き取らせ、聞き取ったことを基に自分の考えを再構築させる。
第4時	○ 最終スピーチを行い相互評価するとともに、単元の学習のまとめを行う。	○ 聞いたことを基に自分の考えを再構築するという観点から、単元の学習を振り返らせる。

(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

「日本語を知らない外国の人に、日本語の魅力を紹介しよう」というテーマでスピーチをするために必要な材料を集めながら、自分の考えをまとめる。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 日本語を知らない外国の人に日本語の魅力を伝えるスピーチを行うことを知り、どのような内容でスピーチを行うかのイメージをもつ。</p> <p>○ 日本語とはどのような言語なのかを考え、互いに意見を交流して、考えを深める。</p> <p>○ 自分が伝えたい日本語の魅力について、資料等を用いて材料を集め、自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ポスターセッションを行って異なる意見や考えを聞き、聞いたことを基に自分の考えを再構築してスピーチを行うことを説明し、単元の学習の見通しをもたせる。 自分たちの学級や学校の魅力を挙げさせ、「魅力」を伝えることのイメージをもたせてから、日本語の魅力について考えさせる。 理由や根拠を明確にしながら考えるよう指示する。 ことわざや慣用句、敬語、短歌や俳句などのリズム、擬音語・擬態語等、具体的な事例を基に自分の考えをまとめさせる。 自分の考えをまとめられない生徒に対しては、英語と比較させて日本語の特徴を捉えさせるなどの支援を行う。 	<p>○ 日本語の特徴について考え、意見を交流しながら考えを深めている。 〔観察〕 〔ワークシート①〕</p> <p>○ 日本語の魅力を伝えるための特徴について考え、その根拠となる材料を集め、整理している。 〔ワークシート①〕</p> <p>○ 多様な語句について理解を深めるとともに、語彙について関心を持ち、自分の考えをまとめている。 〔ワークシート①〕</p>

第2時

① 本時の目標

集めた材料を基に自分の考えをまとめ、ポスターセッションで簡潔に分かりやすく伝えられるよう工夫をしてスピーチメモ及びポスターを作成する。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のねらいを確認する。 ○ 集めた材料を基に自分の考えをまとめ、スピーチメモを作成する。 ○ 内容を分かりやすく効果的に伝えることを意識して、ポスターセッションで用いるポスターを作成する。 ○ ポスターセッションでの予想される質問と回答をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の活動を基に、集めた材料を整理して自分の考えをまとめ、ポスターセッションを行うためのスピーチメモとポスターを作成することを伝える。 ・ 自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えられるよう工夫してスピーチメモを作成するよう指示する。 ・ ポスターは、あらかじめ枠を印刷した画用紙を用意して作成させる。 ・ 質問のパターンについて説明してから予想される質問と回答をまとめさせる。また、自分が聞き手になった際にどのような観点から質問すればよいのかを理解させる。 <p>〈質問のパターン〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 話の内容を確かめるための質問。 ② 話の内容について、より詳しいことを聞き出す質問。 ③ 話し手の考えや根拠について理由を尋ねる質問。 	<p>○ 評価規準・〔評価方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを簡潔に分かりやすく伝えられるよう工夫してスピーチメモを作成している。 〔ワークシート②〕 ○ 内容を分かりやすく効果的に伝えられるよう工夫してポスターを作成している。 〔ポスター〕 ○ 予想される質問と質問に対する回答を適切にまとめている。 〔ワークシート②〕

第3時

① 本時の目標

ポスターセッションを行い、必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えを再構築して、最終スピーチのスピーチメモを作成する。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <p>○ ポスターセッションの手順を理解し、発表の準備をする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>発信を前提とした 聞く活動</p> </div> <p>○ 自分の考えを再構築するために必要な情報を聞き取りながら、ポスターセッションに取り組む。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分の考えの再構築</p> </div> <p>○ 聞いたことを基に自分の考えを再構築し、最終スピーチのスピーチメモを完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の活動を基に、ポスターセッションを行い、聞いたことを基に自分の考えを再構築することを伝える。 ・ ポスターセッションについて説明する。 学級を6グループに分け、2グループが発表者、残りの4グループが聞き手となる。 <ul style="list-style-type: none"> ①発表 1分 ②質疑応答 2分 ③移動 1分 ①～③を6回行い、2回は発表者、4回は聞き手として参加する。発表者は教室の四方の壁際に均等に広がって立ち、聞き手は発表者のもとに移動して発表を聞く。 ・ 聞き手として参加する時は、最終スピーチを行うために参考となる材料を集めるために、必要に応じて質問しながら聞くよう指示する。 ・ 聞き取ったことについて、自分の考えとの共通点や相違点を整理し、スピーチの内容をよりよいものにするために生かして、最終スピーチのスピーチメモを完成させるよう指示する。 	<p>○ 必要に応じて質問しながら話を聞き取っている。</p> <p style="text-align: right;">〔観察〕</p> <p style="text-align: right;">〔ワークシート③〕</p> <p>○ 聞き取ったことについて、自分の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えを再構築し、最終スピーチのスピーチメモに生かしている。</p> <p style="text-align: right;">〔ワークシート④〕</p>

第4時

① 本時の目標

最終スピーチを行い相互評価するとともに、単元の学習のまとめを行う。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の活動を基に、最終スピーチを行うとともに、単元のまとめを行うことを伝える。 	

<ul style="list-style-type: none"> ○ グループの中でスピーチを発表し、感想やアドバイスなどをワークシートに記入する。 ○ グループの中で最もよいスピーチを、グループの代表として一つ選ぶ。 ○ 各グループの代表のスピーチを聞き、参考にしたい点などをノートに記入する。 ○ 単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スピーチをグループの中で発表させる。聞き手は、聞いたことをどのように自分の意見に生かしているかという観点からスピーチを聞き、感想やアドバイスなどをワークシートに記入するよう指示する。 ・ グループの代表を選ぶ際には、聞いたことを自分の考えに生かすという観点から評価するよう伝える。 ・ 聞き手は、自分がスピーチをする際に参考にしたい点などを聞き取り、ノートに記入しながら聞くよう指示する。 ・ ポスターセッションの発表を聞く前と聞いた後とで自分の考えがどのように変化したかを確認、聞く活動を振り返らせるとともに、これから話を聞く際にどのように聞けばよいかを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スピーチを聞いて、単元のねらいに即して感想やアドバイスをまとめている。 〔ワークシート④〕 ○ スピーチを聞いて、単元のねらいに即して参考にしたい点をまとめている。 〔ノート〕 ○ 単元を通して身に付いた力を確認し、これからの聞く活動に生かそうとしている。 〔観察〕 〔ノート〕
--	---	---

【生徒による活動の例】

〈ワークシート②〉集めた材料を整理して、自分の考えをまとめる。

集めた材料を基に、自分の考えをまとめる。

「日本語の魅力を紹介しよう」② ●組 ●番 氏名 ●●●●

↓ポスターセッションで様々な考えを聞く↓

1 ポスターセッションのためのスピーチメモをつくらう。

日本語： 繊細な言葉

細やかなこと。くわしい。つま。

(例) ① 雨の先声：夕立、五月雨、天気雨、霧雨、鉄砲雨など

② 季節感を表す言葉：風薫る、山明える、若葉、新緑、万緑など

③ 感情を表す言葉：上機嫌、愉快、苛立ち、虚しさ、傷心、哀れみなど

④ 相手によって使い分ける言葉：言う、おっしゃる、申す、申し上げる、言われる、お話になる など

←

⑤ 単紙な言葉ではなく、細かい特徴や気持ちをよくくわしく伝えることができる。

⑥ そのが、「日本語の魅力」

2 スピーチに対する「予想される質問」とそれに対する「答え」を考えよう。

質問

① くわしく伝えられることのよさは何ですか？

② くわしく表現しないほうがよいこともあると思いますが、それでも繊細さが日本語の魅力と言えますか？

答え

① くわしく表現すると、自分の微妙な気持ちまで、正確に相手に伝えることができるのでよいと思います。

② そういう場合もあるかもしれませんが、私は様子や気持ちをよりくわしく表現できるところに魅力を感じたので、繊細さを挙げます。

◎ 次の授業では、メモをもとにポスターセッションをして、意見を聞き合います。

ポスターセッションが円滑に進行するように、想定問答を準備しておく。

〈ワークシート④〉自分の考えを再構築し、最終スピーチのスピーチメモを作成する。

再構築した自分の考え

「日本語の魅力を紹介しよう」④ ●組 ●番 ●氏名 ●●●●●●

↓ポスターセッションで様々な考えを聞く↓

1 ポスターセッションで聞いたことを生かして、日本語の魅力についてのスピーチを考えよう。
(スピーチメモ)

私が思う日本語の魅力とは、(表現豊かで美しいところ)です。
はじめ、私は、日本語とは(繊細な)言葉だと考えていました。なぜなら…

- ・単純な言葉ではなく、細かい特徴や気持ちをくわしく伝えることができる。
- ・(例)雨の名前、季節を表す言葉、感情を表す言葉使分け
- ・ポスターセッションで友達の見聞聞いて…
- ・表現の文字が多い(ひらがな・カタカナ・漢字)↓便利
- ・季節を表す独特の言葉がたこさんある↓豊富な表現
- ・ことわざや慣用句、たとえなど↓表現豊か、奥が深い 感覚
- ・相手思いやる言葉↓気持ちよ言葉で表現、美しさ

ということが分かりました。そこで私は…

(繊細も含めて、表現豊かで美しいところ)

が日本語の魅力だと考えます。

2 グループの人のスピーチを聞いて感想を書こう。

みんなの意見を聞いて「なるほど」と思い、新たな意見をもつことができました。自分では気付かなかった意見をポスターセッションで聞き、質問して答えてもらったり、ナラに考えがかわっていききました。自分の意見と似ているところや違うところをつましく整理している人のスピーチが、とても分かりやすかったです。

◎グループの代表のスピーチを聞いて、再構築の仕方などについて参考にしたい点をノートにまとめよう

◎この単元の学習を通して、分かったことやできるようになったことを、ノートにまとめよう

最初にまとめた自分の考えの根拠とした材料

最初にまとめた自分の考え

ポスターセッションで聞いた様々な考えから自分の考えを再構築した際に参考にした情報

スピーチをする際には、言葉や使用する場面などについて具体的な事例等を補いながらスピーチをする。

【検証授業の成果と課題】

第1学年では、「日本語の魅力を紹介する」ことを前提に、ポスターセッションを通して自分の考えを再構築させた。

ポスターセッションで聞いたことを生かしてスピーチをするというゴールイメージをもたせたことで、生徒は聞く活動に主体的に取り組んだ。その結果、他者の意見や考えを取り入れながら自分の考えを深めてスピーチをすることができた。また、自分の考えを再構築するために必要な情報を集めるように指導したことにより、一問一答の質問や聞き直しの質問ではなく、より詳しく相手の考えを引き出そうとしたり、自分の考えについて相手がどのように考えるかを聞いたりしている場面が見られた。

自分の考えを深めるために必要な情報が得られるように、より具体的に取材できる力を身に付けさせることが課題である。意図や目的に応じて質問することについて、継続的に指導していくことが必要である。

〈指導例 2：第 2 学年〉 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うことの指導例

1 単元名

30年後の母校に向けて、今できることを「宣言」しよう
 ～パネルディスカッションを通して、自分の考えと比較して聞く～

2 単元の目標

30年後の母校がどのような学校であってほしいか、そのために今、自分は何をすべきかについて考え、パネルディスカッションで自分の考えと比較しながら話を聞き、自分の考えを再構築することができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 30年後の母校がどのような学校であってほしいか、そのために今、自分は何をすべきかについて考え、パネルディスカッションで自分の考えと比較しながら話を聞き、自分の考えを再構築しようとしている。

【話す・聞く能力】

- ・ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。(A 話すこと・聞くこと(1)エ)
- ・ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。(A 話すこと・聞くこと(1)オ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・ 相手や目的に応じて話の形態や展開に違いがあることを理解している。([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1)イ(オ))

4 教材

- ・ ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開 (全 5 時間)

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第 1 時	○ 30年後の母校がどのような学校であってほしいか、そのために今、自分は何をすべきかについて、根拠を明らかにして自分の考えをまとめる。	○ パネルディスカッションを経て再構築した自分の「宣言」を発表することを説明する。
第 2 時	○ グループの中で互いの考えを発表し合い、グループの考えをまとめる。	○ 共通点や相違点を整理しながら話し合わせ、パネルディスカッションで示すグループの考えをまとめさせる。
第 3 時	○ パネルディスカッションのねらいや方法を理解し、準備をする。	○ 多様な話し合いの形態について説明し、パネルディスカッションの方法や特徴を理解させる。
第 4 時	○ パネルディスカッションを行い、自分の考えと比較しながら話を聞く。	○ 単元のねらいに沿ってパネルディスカッションを円滑に進行させるため、授業者が司会を務め、聞く活動に取り組ませる。

第5時	○ 聞いたことを基に自分の考えを再構築し「宣言」をまとめるとともに、単元のまとめを行う。	○ 聞いたことを基に考えを再構築させ、30年後の理想の母校に向けての「宣言」をまとめさせる。
-----	--	--

(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

30年後の母校がどのような学校であってほしいか、そのために今、自分は何をすべきかについて、根拠を明らかにして自分の考えをまとめる。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
○ 30年後に母校がどのような学校になってほしいかを考え、そのために今自分にできることを宣言するという事を知り、どのような内容で宣言するかのイメージをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 最終的な「宣言」を完成させるまでの活動の流れを説明し、学習の見通しをもたせる。 イメージを現実的なものにさせるために「30年後」と設定し、中学生の親になっている自分や、地域を支える中心となっている自分を想像させる。 	○ 与えられたテーマについて、自分の考えを、根拠を明確にしてまとめようとしている。 〔観察〕 〔ワークシート①〕
○ 30年後の理想の母校のイメージと、そのために今自分がすべきことについて考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 30年後の理想の母校のイメージについては、抽象的になり過ぎず実現可能なものを、根拠とともに示すよう指示する。 自分がすべきことについては、30年後の母校のイメージの実現につながる具体的な行動とするよう指示する。 	
○ グループの中で互いの考えを交流し、次時のグループ協議の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 次時にグループの考えをまとめるためにどのように話し合いを進めればよいかイメージしながら交流するよう指示する。 	

第2時

① 本時の目標

グループの中で互いの考えを発表し合い、パネルディスカッションで示すグループの考えをまとめる。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <p>○ グループで互いの考えを根拠を明確にしながらか発表し合い、パネルディスカッションで示すグループの考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の活動を基に、グループの中で考えを発表し合い、パネルディスカッションで示すグループの考えをまとめることを伝える。 ・ グループの考えは、全員の考えをつなぎ合わせたものにするのではなく、共通点や相違点に着目して比較しながら、全員の願いを包括するものにまとめるよう指示する。 	<p>○ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。</p> <p style="text-align: right;">〔観察〕 〔ワークシート①〕</p>

第3時

① 本時の目標

多様な話し合いの形態を知り、パネルディスカッションのねらいや方法を理解して、パネルディスカッションの準備をする。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <p>○ 様々な話し合いの形態を知り、パネルディスカッションのねらいや方法について理解する。</p> <p>○ グループでパネルディスカッションの準備として、想定問答集の作成やフロアの役割の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な話し合いの形態について知り、パネルディスカッションのねらいや方法を理解した上で、準備をすることを伝える。 ・ ポスターセッション、パネルディスカッション、ディベート等、目的に応じた多様な話し合いの形態を紹介し、この単元でのパネルディスカッションの有効性を理解させる。 ・ グループの中から1名パネリストを決めること、パネリストを支援するためのフロアの役割を考えることなどを指示する。 	<p>○ 多様な話し合いの形態について理解し、パネルディスカッションに主体的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">〔観察〕</p> <p>○ パネルディスカッションの進行や展開をイメージしながらパネルディスカッションの準備をしている。</p> <p style="text-align: right;">〔観察〕 〔ワークシート②〕</p>

第4時

① 本時の目標

自分の「宣言」を再構築するために様々な考えを聞く場としてパネルディスカッションに取り組み、自分の考えと比較しながら話を聞く。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 発信を前提とした 聞く活動 </div> <p>○ 自分の「宣言」を再構築するために必要な情報を聞き取り、自分の考えと比較しながら、パネルディスカッションに取り組む。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 自分の考えの再構築 </div> <p>○ パネルディスカッションで聞いたり話し合ったりしたことを基に、自分の考えを再構築し、30年後の理想の母校とその実現に向けた「宣言」をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の活動を基に、パネルディスカッションを行い、自分の「宣言」を再構築させるために様々な考えを聞き合うことを伝える。 ・ 聞くことの指導に重点を置くために、授業者が司会を務める。 ・ パネルディスカッションは以下の手順で行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①パネリストの意見発表 ②パネリスト間の討論 ③フロアからの質疑応答 ④全体での討論 ・ 発言に際しては、相手の立場や考えを尊重し、また、場に応じた言葉遣いをするよう指示する。 ・ 聞いたことを生かし、自分の考えを様々な角度から見直して、「宣言」をよりよいものにするよう指示する。 	<p>○ パネルディスカッションに主体的に取り組み、自分の考えを再構築するために必要な情報を聞き取っている。</p> <p style="text-align: right;">〔観察〕 〔ワークシート③〕</p> <p>○ 相手の立場や考えを尊重し、場に応じた言葉遣いでパネルディスカッションに参加している。〔観察〕</p> <p>○ 聞いたことを基に自分の考えを再構築し、「宣言」をまとめている。</p> <p style="text-align: right;">〔ワークシート④〕</p>

第5時

①本時の目標

パネルディスカッションで聞いたことを基に自分の考えを再構築し「宣言」をまとめるとともに、単元のまとめを行う。

②本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
○ 本時のねらいを確認する。	・ 前時の活動を基に、互いの「宣言」	

〈指導例 3 : 第 3 学年〉社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合う
ことの指導例

1 単元名

東京オリンピック・パラリンピックで売り出すお弁当を企画しよう
～話合いで課題を解決し、ものの見方や考え方を深める～

2 単元の目標

東京オリンピック・パラリンピックで売り出す弁当について企画会議を行い、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合いながら、自分の考えを再構築することができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- 東京オリンピック・パラリンピックで売り出す弁当についての企画会議を通して、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合いながら、自分の考えを再構築しようとしている。

【話す・聞く能力】

- 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりしている。(A 話すこと・聞くこと(1)ウ)
- 話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合っている。(A 話すこと・聞くこと(1)エ)

【言語に関する知識・理解・技能】

- 話合いの中で語感を磨き語彙を豊かにしている。〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(イ)

4 教材 ・ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開 (全 4 時間)

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第 1 時	○ 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックにおいて、開催会場で売り出す弁当はどのようなものがよいか、自分の考えをまとめる。	○ 企画会議を経て自分の考えを再構築し、企画書にまとめて発表することを説明する。
第 2 時	○ グループで個人の企画を発表し合い(小企画会議)、互いの意見や考えを尊重しながら話し合っ、学級全体での企画会議に向けたグループの企画の重点ポイントをまとめる。	○ 目的や根拠を明確にし、相手や状況など様々な角度から互いの意見を検討し、グループとしての企画の重点ポイントをまとめさせる。
第 3 時	○ それぞれのグループから提案された企画の重点ポイントを基に、学級全体で企画会議を行い、東京オリンピック・パラリンピックの会場で売り出す弁当の重点ポイントをまとめる。	○ ポスターセッションやパネルディスカッションで身に付けた知識や技能を生かしながら、企画会議を行わせる。
第 4 時	○ 学級全体での企画会議で聞いたことを基に、自分の考えを再構築し、自分の考える弁当について企画書を作成する。	○ 企画会議で聞いたことを基に自分の考えを再構築させ、企画書をまとめさせる。

(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックの会場で売り出す弁当を企画するという課題について、目的や根拠を明確にし、相手や状況等を想定しながら、自分の考えをまとめる。

② 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
○ 2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックの会場で売り出す弁当の企画を考えると、この単元の目標を知り、どのような企画にするかイメージをもつ。	・ 最終的な企画書をまとめるまでの活動の流れを説明し、学習の見通しをもたせる。	
○ 2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックの会場で売り出す弁当はどのようなものにすればよいか、自分の考えをまとめる。	・ 弁当を売る相手や弁当を食べる状況などについて具体的なイメージをもたせ、目的や根拠を明確にして、自分の考えをまとめるよう指示する。	○ 与えられたテーマについて、自分の考えを、目的や根拠を明確にしてまとめようとしている。 〔観察〕 〔ワークシート①〕
○ グループの中で互いの考えを交流し、次時のグループでの小企画会議の見通しをもつ。	・ 次時にグループの考えをまとめるためにどのように話し合いを進めればよいかイメージしながら交流するよう指示する。	○ 互いの考えを交流し、共通点や相違点に着目して、次時のグループでの小企画会議の見通しをもっている。 〔観察〕

第2時

① 本時の目標

東京オリンピック・パラリンピックの会場で売り出す弁当について、グループでの小企画会議で個人の企画を発表し合い、互いの意見や考えを尊重しながら話し合っ、学級全体での企画会議に向けたグループの企画の重点ポイントをまとめる。

② 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
○ 本時のねらいを確認する。	・ 前時の活動を基に、グループの中で個人の企画を発表し合い、クラス全体での企画会議で提案するグループの考えをまとめることを伝える。	

<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">発信を前提とした 聞く活動</div> <p>○ グループでの小企画会議で個人の企画を発表し合い、目的や根拠等について検討する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">自分の考えの再構築</div> <p>○ 学級全体での企画会議で提案するグループの企画の重点ポイントをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小企画会議では、弁当の具体的な中身についてではなく、どのような点に重点を置くのがよいかを中心に話し合いを進行するよう指示する。 ・ グループの企画の重点ポイントは、全員の考えを寄せ集めたものにするのではなく、目的や根拠、それに応じた工夫等の観点から検討し、課題に即したものをまとめるよう指示する。 ・ 次時の学級全体での企画会議において、目的や根拠等を明確にして発表するために、発表内容を整理しておくよう指示する。 	<p>○ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを再構築している。 [観察] [ワークシート②]</p> <p>○ 課題の解決に向けて、互いの考えを生かし合っている。 [観察] [ワークシート②]</p>
---	---	--

第3時

① 本時の目標

グループから提案された企画の重点ポイントを基に、東京オリンピック・パラリンピックの会場で売り出す弁当について学級全体で企画会議を行い、互いの意見を尊重し合い、課題解決に向けて互いの意見を生かし合いながら、学級としての企画の重点ポイントをまとめる。

② 本時の展開

学級活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">発信を前提とした 聞く活動</div> <p>○ 自分の企画を再構築するために必要な情報を聞き取ったり、自分の考えを深めたりしながら、学級全体での企画会議に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の活動を基に、学級全体で企画会議を行い、自分の企画を再構築させるために様々な考えを聞き合うことを伝える。 ・ 司会担当の生徒、各グループの代表者を決め、パネルディスカッションの形式・手順で企画会議をするよう指示する。 〈企画会議の手順〉 ①グループの代表者の意見発表 ②代表者間の討論 	<p>○ 企画会議に主体的に取り組み、自分の考えを再構築するために必要な情報を聞き取っている。 [観察] [ワークシート③]</p> <p>○ 相手の立場や考えを尊重し、場に応じた言葉遣い</p>

<p>○ 学級全体での企画会議で聞いたり話し合ったりしたことを整理する。</p>	<p>③フロアからの質疑応答 ④全体での討論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発言に際しては、相手の立場や考えを尊重し、また、場に応じた言葉遣いをするよう指示する。 ・ 聞いたことを生かし、自分の考えを再構築するという観点から、企画会議の内容を整理するよう指示する。 	<p>や的確な語句を使用しながら企画会議に参加している。</p> <p style="text-align: right;">〔観察〕</p> <p>○ 学級全体での企画会議の内容を整理し、自分の考えの再構築へとつなげている。</p> <p style="text-align: right;">〔ワークシート③〕</p>
--	--	---

第4時

① 本時の目標

学級全体での企画会議で聞いたことや話し合ったことを基に、自分の考えを再構築し、東京オリンピック・パラリンピックの会場で売り出す弁当についての企画書を作成するとともに、単元の学習のまとめを行う。

② 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>自分の考えの再構築</p> </div> <p>○ 学級全体での企画会議で聞いたり話し合ったりしたことを基に、自分の考えを再構築し、東京オリンピック・パラリンピックで売り出す弁当の企画を企画書にまとめる。</p> <p>○ 単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の活動を基に、学級全体での企画会議で聞いたり話し合ったりしたことを生かしながら自分の考えを再構築し、企画書を完成させることを伝える。 ・ 聞いたことを生かし、自分の考えを様々な角度から見直して、企画書をよりよいものにするよう指示する。 ・ 企画書は提出後に教室内に掲示して互いに学び合う機会を設けるとともに、優れた企画を投票で選出することを伝える。 ・ 企画会議を通して自分の考えがどのように変化したかを確認し、聞く活動を振り返らせるとともに、これから話を聞く際にどのように聞けばよいかを確認させる。 	<p>○ 聞いたことを基に自分の考えを再構築し、自分の企画書をまとめている。</p> <p style="text-align: right;">〔ワークシート④〕</p> <p>○ 単元を通して身に付いた力を確認し、これからの聞く活動に生かそうとしている。</p> <p style="text-align: right;">〔観察〕 〔ワークシート④〕</p>

【生徒による活動の例】

〈ワークシート①〉 自分の考えをまとめる。

東京オリンピック・パラリンピックで売り出すお弁当を企画しよう。
 ↳ 話し合いで課題を解決し、ものの方や考え方を深める。 ①

1 相手や状況を考えてよう

● 組 ● 番 氏名 ●

◆お弁当を売る相手はどんな人だろう

- ・日本人の観戦客
- ・海外からオリンピック観戦にやってくる外国の人
- ・オリンピックに参加している選手やスタッフ

◆お弁当を食べるのはどんな状況だろう

- ・競技場内の客席で食べる。
- ・競技を見ながら食べる。
- ・大勢の人たちとワイワイ食べる。

2 お弁当の「重点ポイント」を考えてよう。

◆お弁当を企画する上での「重点ポイント」を決めよう。(理由)も書くこと。

① 日本らしさが感じられるお弁当にする。
 (理由)海外から観戦に来る外国の人が多く、その人たちに日本らしさや日本のよさを伝えたいから。

② 持ち運びやすいお弁当にする。
 (理由)競技場内で食べたり立ち回し会場を移動したりすると考えられるから。

③ 記念として容器を持ち帰れるお弁当にする。
 (理由)オリンピックを観戦した記念としてほしいから。

3 お弁当を企画しよう。

● 組 ● 番 氏名 ●

◆お弁当を企画しよう。

● 組 ● 番 氏名 ●

私の考えるお弁当は…

田舎山弁当
 世界遺産に登録された富士山の形の容器に入った、和食のお弁当。

相手や状況を想定し、どのような点に重点を置いて企画を考えるかを明確にさせる。

〈ワークシート②〉 グループの企画の重点ポイントをまとめる。

東京オリンピック・パラリンピックで売り出すお弁当を企画しよう。
 ↳ 話し合いで課題を解決し、ものの方や考え方を深める。 ②

【小企画会議】グループで企画の「重点ポイント」をまとめよう。

● 組 ● 番 氏名 ●

◆「重点ポイント」について話し合い、内容を整理しよう。

(みんなの意見・発言)

- ・寿司職人が作ったお寿司弁当
- ・日本の伝統文化を伝える。
- ・値段が多少高くてもおいしいものを食べてほしい。

(自分が考えたこと)

- ・高いと売れない。特に海外から来ている人には安いほうがいい。
- ・大量生産すれば値段は抑えられる。
- ・日本らしさと和食。魚や野菜を中心とした和食がよいのではなかろうか。

◆グループの企画の「重点ポイント」をまとめよう。

- ・国産のブランド牛を使った焼肉弁当
- ・それぞれの地域の宣伝にもなる。
- ・国産文化によって好みが違う。多くの人が食べられるものがない。
- ・見た目も大切。日本の食文化を伝えたい。

◆私たちのグループが考える「重点ポイント」は…

- ① 日本のさまざまな産地を紹介するために国内で生産された素材だけを使用したお弁当にする。
- ② 国産文化には肉を食べられない国もあるので野菜と魚を中心にする。
- ③ 見た目も和風にして、記念に持ち帰れるようなものにする。

◆グループの企画の「重点ポイント」をまとめよう。

食材や味付けに工夫が必要。

話し合いの話題や方向を捉えながら、自分の考えを整理していけるよう、効果的にメモを取らせる。

VI 研究のまとめ

本研究は、「〈創造的な聞き手〉を育てるための指導の工夫」を研究主題とし、仮説に基づき検証を行った。以下、研究の成果と課題をまとめる。

● 研究の成果

本研究では、単元の中に「発信を前提とした聞く活動」を取り入れ、意図や目的をもって主体的に聞き、聞いたことを基に自分の考えを再構築できる聞き手＝〈創造的な聞き手〉を育てることを目指した。

第2学年の指導例に示したように、発信を前提としたことで、従来パネリスト主体になりがちであったパネルディスカッションが、フロア＝聞き手が積極的に参加する活発な話し合いの場となった。同様に、第1学年のポスターセッションにおいても、生徒は、発表者の話を正確に聞き取るだけでなく、自分が発信するために必要な情報を引き出そうと質問を繰り返していた。また、第3学年の企画会議では、小会議、全体会議を通して「重点ポイント」について考えを深めていきながら、並行して自分の企画書（発信）にどのように反映（再構築）できるかという話し合いのゴールを常に意識していた。どの学年においても、主体的に聞くこと、聞いたことを基に自分の考えを再構築することができていたといえる。

また、本報告書に示したように、検証授業では、再構築の過程を客観的に振り返ることができるよう、ワークシートにも工夫をした。この工夫によって、生徒は、単元の学習を振り返る際に、話を聞いたり話し合ったりしたことを通して自分のものの見方や考え方が深まったと実感することができた。この実感は、今後、ここで身に付けた「聞く力」を他教科等において生かそうとする姿勢につながるものと考えられる。

● 研究の課題

検証授業を終えて課題として挙げられたのは、以下の3点である。

1 質問する力の向上

相手からより多くの情報を引き出したり、話し合いの内容をさらに掘り下げたりするためには、質問する力の向上が求められる。聞きたいことは分かっているが、その情報を得るために的確な質問ができていない生徒がどの学年でもみられた。意図や目的に応じた質問の仕方について、各学年の実態に応じて継続的に指導していくことが必要である。

2 「考えの再構築」の質の向上

どの学年においても、聞いたことを基に自分の考えを再構築させることはできたが、再構築後の発信の内容には、生徒によって差が認められた。安易に他者の意見に同調して自分の意見を取り下げたり、自分の考えに他者の考えを付加しただけで再構築としたりするのではなく、聞いたことを基により深く「思考」させ、自分の考えを「変容」させるよう指導することで、「考えの再構築」の質の向上を図る必要がある。

3 課題解決能力の向上

検証授業では、聞いたことを基に自分の考えを再構築させていく過程に重点を置き、聞くことの指導の充実を図った。次の段階では、身に付けた「聞く力」を活用する場の設定が求められる。各学年の発達段階に応じつつ、ここで示した指導例から応用的・発展的な課題へとつなげ、身に付けた「聞く力」を活用し課題を解決する力を向上させていくことが必要である。

平成25年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 国 語

地区	学校名	職名	氏名
江 東 区	江 東 区 立 有 明 中 学 校	教 諭	◎ 秦 佐 和 子
青 梅 市	青 梅 市 立 第 一 中 学 校	教 諭	○ 上 村 知 未
千 代 田 区	千 代 田 区 立 九 段 中 等 教 育 学 校	教 諭	西 村 成 史
新 宿 区	新 宿 区 立 西 新 宿 中 学 校	教 諭	細 井 千 恵
台 東 区	台 東 区 立 忍 岡 中 学 校	主任教諭	石 津 あ や
大 田 区	大 田 区 立 大 森 第 二 中 学 校	教 諭	関 根 元 子
江 戸 川 区	江 戸 川 区 立 二 之 江 中 学 校	教 諭	石 井 由 紀
立 川 市	立 川 市 立 立 川 第 五 中 学 校	教 諭	安 村 幸 子
東 村 山 市	東 村 山 市 立 東 村 山 第 六 中 学 校	主任教諭	浅 田 七 絵
国 立 市	国 立 市 立 国 立 第 二 中 学 校	教 諭	川 寄 真 琴
東 久 留 米 市	東 久 留 米 市 立 東 中 学 校	教 諭	松 岡 永 絵

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
指導主事 吉川 泰弘

平成25年度
教育研究員研究報告書

中学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

平成25年度第193号

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 昭和商事株式会社